

独断

注目商品

REVIEW

新メカニズム・ファティバントによる 葉面施肥技術のブレイクスルー

一般的な常識として、肥料は作物の根から吸収されるもの。しかし実際は根だけではなく、葉、茎、実、花弁からも肥料成分を吸収することが可能で、栄養素の移動は5〜20倍効率がよく、即効性も高かったりする。ただし葉面への肥料散布には二つの問題点がある。ひとつは葉には皮膜部分のクチクラ層と内部にワックス状物質が立ちほだかるので、散布した成分量の半分も吸収できないこと。もうひとつは浸透力を高めようと展着剤を使用した場合、葉の表

葉面散布肥料

⑤ ニュートリバントプラス

■お問い合わせ

東海物産株式会社

〒512-0923 三重県四日市市高角町2997番地

TEL:059-3263931 加藤宛

http://www.tokaiussan.com/



皮上に留まって葉の組織にダメージを与えてしまうことだ。

そんな問題点を解決するのが、東海物産から発売された葉面散布肥料「ニュートリバントプラス」である。この肥料を撒いて葉の表面に肥料成分を固定させると、葉が窒素、リン、カリなどの多量養素を吸収し、代謝プロセスに組み込んでいく。なぜこんなことが可能なかといえば、「ニュートリバントプラス」にファティバントという新しいメカニズムが組み込まれているからだ。ファ

ティバントは細胞間のスペースに分け入ると、組織を傷つけることなく、クチクラ層をゆっくりと通過。その後、肥料への効果は3〜4週間にわたって持続するが、約30日後には作物の表面で分解される、作物および環境にも優しい新技術なのである。

そして浸透効果を多量養素別に見ていくと、もともと浸透しにくいと言われるリンにおいての効果が際立つ。リン酸は一般的な展着剤を使っても、ほんの少し浸透率が上がるだけだが、「ニュートリバントプラス」を使うと、最終的に吸収効率が約2倍に達する実験結果が出ている。またカリウムも作物の重要器官へ迅速に行き渡るので、成長を促すことうけあいだ。また、水稲、小麦、大麦、大豆、甜菜、馬鈴薯など作物別に、主要栄養素・微量栄養素が設計されているため、最適な施肥体系を構築するのに役立つ。

窒素に関しては、根から吸収する窒素の同化を促進させる機能があり、土壌中に含まれた肥料の効率よい吸収が可能に。そして「ニュートリバントプラス」そのものに窒素を配合すると、窒素成分の浸透をアシストするため、大量に窒素が必要な作物に対しても効果を発揮する。

さらに他の窒素肥料と組み合わせれば、窒素濃度をコントロールして、圃場・作物ごとの窒素過剰を防止できる利点も。

そのうえ使用した作物は病害抵抗性が高まって、うどんこ病・いもち病のような病気を軽減することが証明されており、病害に対しても威力を発揮するため、農薬の量とコストを減らせることも大きなメリットだ。

「ニュートリバントプラス」は作物別に専用配合されているのもユニークな特長で、海外では既に小麦などの穀物や果樹で大規模に使用され始めて増収実績を上げている。収量増加や収益向上に敏感な農業経営者にとっては、頼れる武器になるに違いない。(鈴木工)

